

関川流域委員会 今後の活動(案)

1. 今後の流域委員会活動など

(1) 関川や水に関するこれまでの活動

流域委員会アンケートおよびフォーラム

平成15年に流域内59自治会を対象にアンケート調査を実施

上流域と下流域、水害被災経験の有無等により、川や水に関する意識が異なること、住民が川に関心を持ち行動するきっかけとして知識や情報が重要で、水害の危機感を共有したり川とのふれあいを促進することが、合意形成を図る際のよりどころとなること、などが明らかとなった。

59自治会区長を対象にアンケート中間結果説明会を5回催、35自治会長が参加

平成16年4月17日 上越市、妙高村、安塚町 22自治会長参加

平成16年7月 3日 上越市2会場 13自治会長参加

平成17年6月11日 関川流域フォーラムを開催、アンケート結果の中間報告

参加者は194人。参加者の多くが高齢者で、中堅・若年世代が少なかった。

7.11 関川フォーラム

平成17年7月に開催された7.11 関川フォーラムでは、小中学生により川についての学習の成果が報告された。自ら体験して学んだ子供たちには川や水についての意識が備わりつつある。

(2) これからの活動に向けた課題

中堅層の参加

河川管理者が策定する河川整備計画に対して、流域住民の多くの方々の合意が得られる意見を述べるために、住民が望ましいと考える「関川おける」「川や水に関する基本的な考え方(骨格)」をとりまとめるものであるが、このためには、流域全体の人々の賛同が必要不可欠である。

これまでのアンケート調査の回答者や説明会等の参加者の大半が高齢者であり、関川フォーラムの主役は子供たちであった。現在地域社会を支えている中堅世代が抜け落ちており、この世代の住民も含めたより多くの流域住民の意見や考えを聞くことが望まれる。

川や地域についての住民意識の向上

今後、住民が主体となって川や水について考えていくためには、流域全体や社会情勢など広い視野からの考察が求められる。住民の意識や関心はさまざまであり、それぞれに応じた方法で高い意識を育てていく必要がある。

川や水についての情報提供

アンケート実施後2年が経過し、中間的なとりまとめ公表を行ったが、外に向けた情報発信はまだ不足している。協力いただいた59自治会をはじめ、その他の方々に対しても、今後さらに個々の関心をひき出し、川や地域に対する意識を育むためには、継続的な情報や学習機会の提供が必要である。

(3) これからの活動 ~川や水について考えるための土壌づくり~

さまざまな活動を通じて、多くの流域住民が広い視野を備え、好ましい川や地域のあり方について総合的に考えることができる流域文化を育てていく。

1) 基本的な考え方の「骨格」づくり ~理解を容易にするプロセス「川の総合学習」を導入~

川や水が及ぼす広範囲の影響

基本的な考え方の「骨格」は、将来の社会経済情勢を見据えながら流域全体の土地利用のあり方を検討する必要性を示すなど、川や水そのものから、関連する広範囲の影響に対して、整理することとしており、住民自らが考え、行動し、課題や問題点を見いだしていく環境整備を進めることが重要となっている。

川の総合学習

一連の活動を通じて、広域的・総合的な視点で川や水についての考えることの大切さを学び、「骨格」を理解するための準備を整える。

車座方式の意見交換会 (= 学習会) で流域委員会出席者と直接対話をしながら、自分たちの川や地域についての課題を整理し、意識レベルを向上させる

上中下流域の住民がいっしょに川を眺め、意見を交わしながら場所によって異なる問題のあることを理解する

住民参加型協議 (= ワークショップ) により、これらを解決する方策を考えていく中で、流域全体が共存するためには川について考えるだけでは解けないことを「感じ」「理解する」ことをめざす。

こうした意識 (土壌) があれば、「骨格」を理解することが可能と考えられる。

フォーラムで合意形成

ワークショップで流域住民が感じた「難しさ」に対して、流域委員会がこれらをクリアしていくための「川と水に関する基本的な考え方の「骨格」」を提示する。ワークショップ参加者であれば、その意味を理解し、合意形成が図れるものとする。

2) 流域住民が考える望ましい河川の整備

基本的な考え方の「骨格」に基づいて、個別の河川整備や周辺整備等について考えていく。自治会などで流域委員会出席者と車座方式の意見交換会を実施し、合意形成を図っていく。

3) 川に親しむ活動、より良い川や地域を考える活動の展開

川に親しむ活動

現在も学校やNPOなどによって川を舞台にした様々な活動が行われており、これからも川に親しむことを通じて、子供たちをはじめ多くの住民が水や地域について考える土壌を育む。

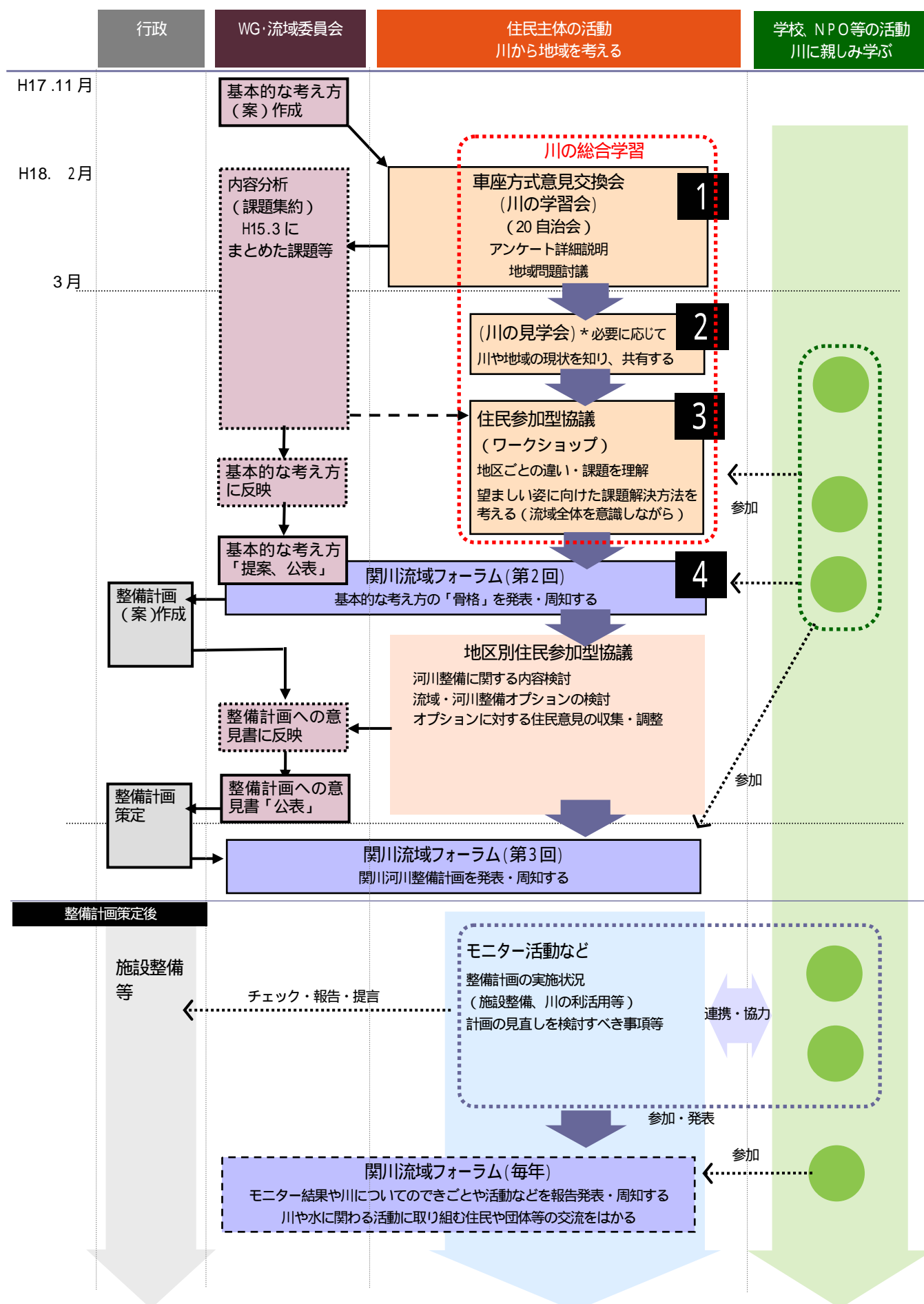
川のモニター

河川整備計画策定後は、計画に基づいて河川改修などが行なわれていくが、計画どおりに整備されているか、地域の事業者や住民が川と適切に付き合っているかなどについて、住民自らがチェックする。

フォーラムの開催

これらについて、定期的に発表・報告するとともに、母なる川「関川」とその流域について良く知り考える場、こうした活動を行う住民や団体が交流を図る場を設けていく。

2. 関川流域の河川整備計画策定と川や地域について考える土壌づくりの流れ(案)



3.活動のイメージ

(1) 車座方式意見交換会(=川の学習会)

- 対象 20自治会住民(アンケート結果より抽出する。)
- ・自治会長から自治会青年部、婦人部、子供会、消防団等を通じて、若い世代、女性、親子の参加を呼びかける
 - ・小学校やPTAを通じて、教師、子供の親(中堅世代)の参加を呼びかける
- 内容 アンケート結果詳細説明:対象自治会の特性など
中間とりまとめの結論、「骨格」から、広域的かつ総合的な視点の重要性を学ぶ
意見交換会:地域の問題を挙げ、確認する。
- 進め方
- ・流域委員会の代表者が進行役となり、参加者と協議する。
 - ・流域委員会出席者と住民参加者が直接話したり、ほかの参加者の意見等を聞いて、いろいろな見方・考え方を学ぶ。
 - ・クイズなどにより、学んだことを復習する。
- 会場 各自治会集会所、区事務所、小学校等

(2) 川の見学会(必要に応じて)

- 参加者 車座方式意見交換会参加者。
若い世代が少ない場合、学校やPTA等を通じて参加者を募る。
目安として、上中下流6校程度
一市民として、学校教師や行政職員も参加する。
- テーマ 上中下流の住民と一緒に流域の多様な表情を見学し、問題点などについて互いに理解しあう。
- 内容
- 1)オリエンテーション(見学の目的と視点)
 - 2)見学ポイントの例
 - 上流と中流、下流。
 - 場所・区間による護岸や周辺状況の違い
(被災箇所と市街地更新、堤防と周辺土地利用の関係など)
 - 自然環境・景観の優れた場所、親しみやすい場所
(苗名滝、河川公園、河川敷等)
- 進め方
- ・上中下流住民がともに川を見学し、それぞれの地区住民から問題となっていることがらなどを聞く。
 - ・必要に応じてボート等に乗って川から岸を眺める

(3) 第1回住民参加型協議会(=川のワークショップ1)

参加者 川の学習会・見学会の参加者を主体に

内容 学習会の結果や見学会の感想をもとに、関川の上流、中流、下流の違いと課題を整理する。次に、それぞれの流域に望まれる姿や、流域全体のことを考えながら、それらの課題を解決するための方策や考え方などについて検討する。

1) オリエンテーション

2) ワークショップ

「治水」、「環境」をテーマ(案)としてグループに分かれて検討する。

ファシリテーター役は、主に流域委員会委員がつとめる

(4) 第2回住民参加型協議会(=川のワークショップ2)

参加者 前回ワークショップ参加者

内容 第1回ワークショップで検討した内容をまとめる。上中下流域の望ましい姿と、自分たちの住む流域に望む姿、可能であれば、それらを実現するための方策などを整理する。解決方法が見出せないものについては、そのことを示す。

まとめた結果をフォーラムで発表する場合は、プレゼンテーションの方法、材料等について、ファシリテーターや事務局がアドバイスする。

1) オリエンテーション

2) ワークショップ

「治水」、「環境」をテーマ(案)としてグループに分かれて検討する。

ファシリテーター役は、主に流域委員会委員がつとめる

(5) 第2回関川流域フォーラム「水についての基本的な考え方の「骨格」」報告会

目的 流域住民が考える川と水についてのさまざまな課題と、これらへの対応策を検討していく上での基本的な考え方について、流域委員会が報告する。流域委員会として「関川流域における川や水の基本的な考え方の「骨格」」をまとめ、参加者(流域住民)が共有する。

内容 1) 水についての基本的な考え方「骨格」 /小池委員長

2) 関川のかかえる課題と解決の方向性(治水防災、環境) /WGメンバー

個別の課題(地域によって対立する事象など)をいくつか取り上げ、それぞれについて合意できる考え方などを説明する。

3) フリートーク

/住民(自治会長、親等) 教育関係者、合意形成・まちづくり専門家など

ワークショップに参加した住民から、「川や地域のさまざまな課題を解決するためには総合的な高い視点が必要であることがわかった」ことなど報告してもらう。これをもとに、出席者が骨格についての理解を容易にする対話を展開する。